

AL09 薬学分野におけるシンポジウム活動を通じた学術振興と若手人財育成 Academic Promotion & Development of Young Scientists in Pharmaceutical Sciences through Symposia Activity

鈴木 國夫 (Kunio SUZUKI)

公益財団法人万有生命科学振興国際交流財団 (Banyu Life Science Foundation International)

日本の経済発展は、世界トップレベルの科学技術を駆使して、高性能かつ高品質の製品を次々に生み出す製造業によって長く支えられてきた。しかし、近年、日本の多く分野の製造業は、中国、韓国、あるいはその他の新興国の追撃を受け、より付加価値の高い精密産業の重要性がますます高まっている。従って、今後も日本が国際競争力を維持し発展を続けるためには、他の追随を許さないような画期的な科学技術の開発とそれをフルに活用した製品開発が求められる。そして、それを実現するためには、国際社会に通用する高い専門性はもちろん、広い視野と真の独創性を合わせ持つ若手研究者の育成が必須である。

我々は、そのような状況下、高付加価値精密産業の一つである医薬品産業の活性化のためには、薬学分野の学術振興と人材育成が極めて重要であることを認識し、薬理学、薬物動態学、製剤学、有機合成化学等の薬学関連の様々な分野におけるシンポジウム活動を展開してきた。

具体的には、まず 1989 年に有機合成化学分野のシンポジウムを創設し、以来 25 年以上にわたって日本全国各地で毎年シンポジウムを開催している。このシンポジウムの特徴は、若い研究者に有機合成化学の面白さをわかりやすく伝えることであり、講演者には特にその点を依頼し、プログラムの内容も工夫を重ねてきた。さらに 2004 年に創設された Lectureship Award は、日本の若手有機合成化学者を広く世界に紹介する貴重な機会となり、我が国の新進気鋭の研究者がこの Award を目指している。また 2010 年より創設された「大洋会議」では、高度な専門性と広い視野を備えた真のリーダーとなる人材を早期から育成していくことを目的に、専門分野の研究発表に加えて、日本の進むべき道、地球的課題の解決策といった、広い視点での議論を行ってきた。

1998 年に開始した薬理学分野のシンポジウムでは、イオンチャネル、脳、ストレスといったメインテーマを設定し、各テーマ 3 回のシリーズで、その領域の最先端の基礎研究が細胞、組織、個体、そして臨床にどのようにつながっているのかを、若い研究者にわかりやすく紹介してきた。さらには、この薬理学分野のシンポジウムの内容をまとめて出版することにより、その興味深い内容を広く提供することができた。

また、薬物動態学・製剤学分野では、大学と製薬企業の研究を融合したシンポジウムを 1999 年から開催した。ここでは、大学のシーズと製薬企業のニーズをマッチングさせるという新たな構想の下で、大学の最先端研究に加えて、企業研究者からの発表も度々行われた。基礎研究の成果と製薬企業の技術開発の接点を見出す場として、若い参加者にとって大変刺激的なものとなった。

さらには、分析化学、製剤粒子工学、化学工学といった領域の研究を創薬ニーズに生かすべく「創薬工学」という新領域を設定し、シンポジウムを 2001 年から開催した。この活動によって、エンジニアリングと薬学とのシナジーを生み出すことに寄与できたと考えている。

以上の活動が、我が国の薬学の様々な分野における学術振興、人材育成、教育、さらには、日本の発展に、これからも少しでも貢献できればと願っている。